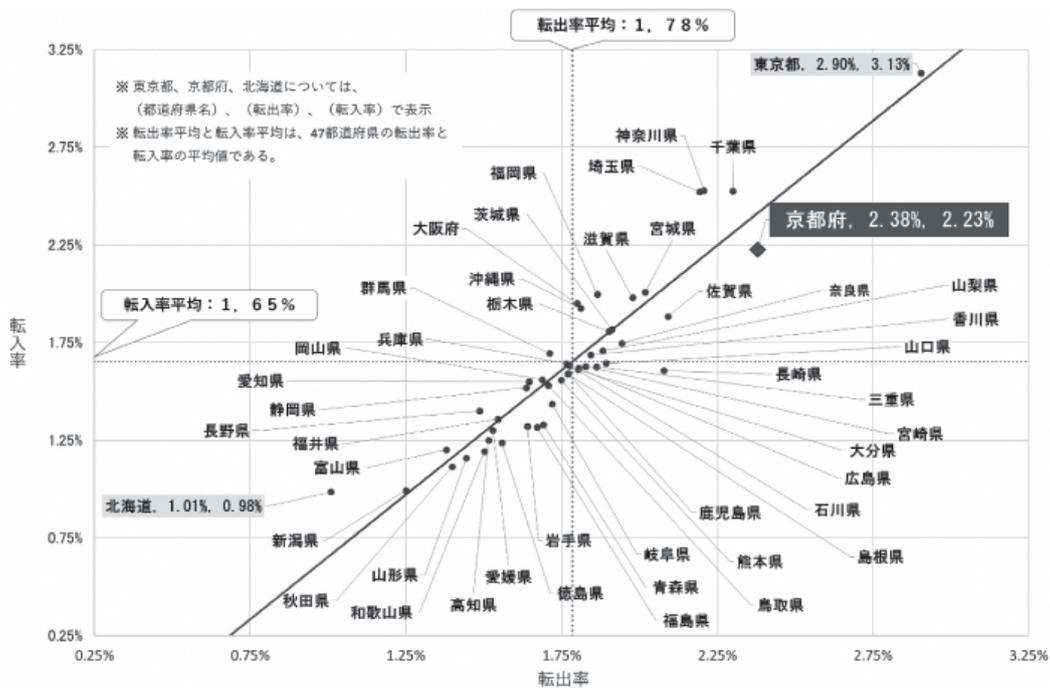




都道府県別の転出率・転入率 —令和2年住民基本台帳人口移動報告2020年結果を用いて—

現在の日本は、少子化や都市部への一極集中など人口に関する多様な課題に直面しており、国や地方自治体をはじめとした様々な機関、団体が改善に向けた取り組みを行っているところです。そこで、本稿では令和3年1月29日に公表された最新の「住民基本台帳人口移動報告2020年結果（以下、住民基本台帳人口移動報告）」を用いて、都道府県の人口移動について分析してみました。

「住民基本台帳人口移動報告」の移動数（2020年1月～12月の1年間における日本国内の移動者数）を分子、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯調査（2020年1月1日現在）」の人口を分母として、都道府県別の転出率¹と転入率²を計算し、転出率を横軸に、転入率を縦軸にして、散布図にして分析してみると以下のようにになりました。



出典：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」及び総務省自治行政局「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」を加工して作成。

転出率、転入率ともに一番大きかったのは東京都、一方で転出率、転入率ともに一番小さかったのは北海道という結果になりました。京都府は、転出率2.38%、転入率2.23%と図の右上に位置しており、全国の中でも人口の出入が盛んな部類に位置していることが分かりました。また、この図から各都道府県の値は右肩上がりりの直線で近似することができ、転出率または転入率のどちらかが大きければ、もう一方の比率も大きい関係にあることが読み取れますね。これを統計学では、正の相関関係があるといいます。

今回は、移動数や人口のみでの分析を行いました。「住民基本台帳人口移動報告」には、年齢階級別や男女別など様々な区分が設けられており、より詳細な分析が可能となっております。ご興味を持たれましたら、ぜひトライしてみてください！

¹ 住民基本台帳人口移動報告の「他都道府県（他市町村）への転出者数」÷住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯調査の人口計×100

² 住民基本台帳人口移動報告の「他都道府県（他市町村）からの転入者数」÷住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯調査の人口計×100